

四季折々 農村景観

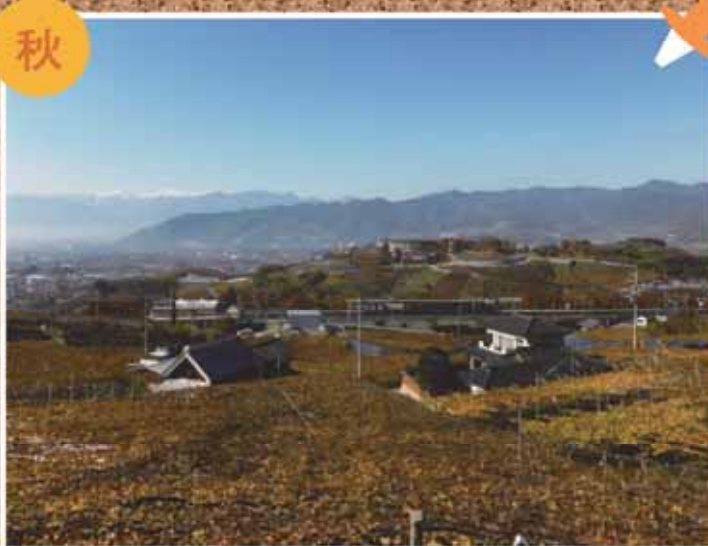
春



夏



秋



冬



峡東地域は、四季により様々な表情を見せてくれます。春のお花見や秋の収穫祭等、農業に関する祭りが開催され、多くの観光客で賑わっています。お近くにお越しの際には是非お立ち寄りください。

YAMANASHI Agriculture and Farm Village Symposium 第8回やまなし農業・農村シンポジウム

GIAHS 世界農業遺産 認定を目指して！ 守ろう、伝統ある果樹農業と美しい農村景観



基調講演者 永田明氏 ↑
(国連大学サステイナビリティ高等研究所)

多くの参加者で賑わうシンポジウム会場 →
3名のパネリストによるディスカッション ↓



平成27年12月6日、甲州市勝沼ぶどうの丘にて、「第8回やまなし農業・農村シンポジウム」が開催されました。シンポジウムでは、国連大学サステイナビリティ高等研究所の永田明氏に「先進国日本における世界農業遺産の意義とその活用」について講演いただきました。パネルディスカッションでは、「地域の何が貴重で、特長的なのか、住民自らが再認識することが必要だ」、「住民、企業、NPO、行政が一丸となって農業を継承していくことが重要」など意見が交わされました。シンポジウム後のアンケートでは、「認定を目指すことが、峡東の地域資源を活かしたまちづくりに繋がって欲しい」等の意見が寄せられました。日々、世界農業遺産認定に向けて、気運が高まってきています。

美しい農村景観

峡東地域の桃源郷



写真提供：山梨市観光協会

「桃源郷」を形成する 歴史ある果樹農業

峡東地域（山梨市・笛吹市・甲州市）は、ももぶどうの生産量日本一を誇る、山梨県の代表的な果樹産地です。美味しいフルーツだけでなく、桃の花が一面に咲き誇る春、赤や黄に色づいたぶどう棚が広がる紅葉の秋など、四季折々の桃源郷を楽しめることも地域の大きな魅力です。この美しい農村景観は、歴史ある果樹農業によって形成されています。

本地域は、日照時間が長く、昼夜の寒暖差が大きい盆地特有の風土特性を活かし、江戸時代以前から**甲斐八珍果**に代表される多品目な果樹を栽培してきました。先人達の栽培技術に加え、昭和40年代から畑地かんがい施設の整備が進み、高品質なもも・ぶどう等の栽培が可能になり、日本を代表する果樹産地として発展し続けています。

さらに、山梨県発祥の「甲州ぶどう」を用いたワイン造りも古くから盛んに行われ、農業が地域経済を支え続けています。

また、ぶどう寺と呼ばれる甲州市の大善寺では、手ぶどうを持った薬師如来像（国指定重要文化財）が安置されています。このように、果樹農業は生活の一部であるだけでなく、歴史と文化にも密接に関係しています。

世界農業遺産認定を目指して

こうした地域の景観や文化、伝統的な農業を次世代へ継承するため、県と市は、「**世界農業遺産**」の認定を目指しています。

認定を目指す取り組みにより、地域住民が地域の特長を再発見するきっかけとなります。地域が誇りを持って農業を営み、文化や伝統を守ること、次世代へ継承されることが期待されます。

世界農業遺産とは？

土地環境を生かした伝統的な農業と文化、景観、生物多様性に富んだ重要な地域を次世代へ継承することを目的に、国連食糧農業機関（FAO）が2002年から開始したプログラムです。世界では、15カ国36地域が認定されており、日本では、新潟県の「トキと共生する佐渡の里山（写真上）」、石川県の「能登の里山里海（写真下）」等、8地域が認定されています。
※2015年12月25日現在。



甲斐八珍果って何ぞや？



一答えは裏表紙へ